

今週（4月9日から4月13日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が12日までは370兆円台後半、年金支給日の13日は380兆円台前半での推移となる中、無担保コールO/N物は、積み最終週要因から、週を通して取り上がりの展開となった。

無担保コールO/N物は、週初9日は、信託・証券業態が▲0.065%近辺、地銀業態で▲0.065～▲0.045%の出会いで、先週末対比で概ね同水準の出会いであったものの、10日以降は徐々に取り上がりの展開となった。取り調整により週半ばから後半にかけては都銀・信託・証券業態で▲0.055～▲0.045%、地銀業態で▲0.050～▲0.045%の出会いが中心となった。ターム物は低水準の出会いが続いており、地銀業態を中心に、週を通して1～2W物で▲0.06～▲0.045%の出会いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは、4月12日に2W・8,000億円でおファーされ、結果は1,460億円（期落ち額1,270億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、概ね▲0.200～▲0.105%程度の広いレンジでの取引となった。先週に続き資金調達サイドの厚みに乏しい状況は変わらず、低めのレート水準で推移した。

SCは個別銘柄では2y384～386、5y130～135、10y333～350、20y163～164、30y57～58等、カレント近辺やチーペスト周りの銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、品薄感が強く、全般的に堅調な相場展開となった。

12日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.16%から▲0.17%に買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.1685%、按分落札利回▲0.1625%と、WI取引を反映した強い結果となった。セカンダリーでは、▲0.185～▲0.18%の出会いと強含みで推移した。

短国買入オペは9日と13日に実施された。9日は、5,000億円でおファーされ、応札額が1兆5,518億円とやや多かったものの、平均落札利回較差▲0.004%、按分落札利回較差▲0.007%としっかりした結果となった。13日は、事前予想通り少な目の2,500億円でおファーされ、平均落札利回較差▲0.002%、按分落札利回り較差▲0.006%と、好需給を反映してしっかりとした結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週間償還総額2,500億円程度に対して、週間発行総額6,000億円程度と発行超となった。一部の輸送機器・電気機器の業態において超大型発行が見られた。発行レートについては、先週に引き続き業者の玉確保のニーズが旺盛であることから、普段よりも強めの買いが散見された。一方で、期間の長い物に関しては先行きのレートが上昇することを見越してか、買い意欲が弱まる姿勢が見られた。

CP等買入オペは、12日にオペ額2,500億円でお実施された。応札可能銘柄が少なく、前回のオペからの期間も短いためレート低下が予想される中、結果は平均落札レート▲0.008%、全取レート▲0.013%と、前回（平均0.002%、按分▲0.007%）から若干の低下となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
4/9 (月)	21,678.26	0.030	106.95	△ 0.058	△ 0.134	3,776,800
4/10 (火)	21,794.32	0.030	106.71	△ 0.055	△ 0.185	3,780,700
4/11 (水)	21,687.10	0.025	107.09	△ 0.053	△ 0.149	3,794,100
4/12 (木)	21,660.28	0.030	106.82	△ 0.047	△ 0.111	3,786,900
4/13 (金)	21,778.74	0.030	107.33	△ 0.044	△ 0.153	3,874,000

来週（4月16日から4月20日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/16 (月)	月例経済報告(内閣府) 2月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				2月の米企業在庫 3月の米小売売上高
4/17 (火)		5Y 20,000億円 4/19発行	交付税借入 10,500億円 4/26借入		3月の米住宅着工件数 3月の米鉱工業生産・設備稼働率
4/18 (水)	3月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 21,000億円 4/20発行			米ページブック 3月の英消費者物価指数 3月のユーロ圏消費者物価指数改定値
4/19 (木)		TB3M 44,000億円 4/23発行	20Y 10,000億円 4/23発行		
4/20 (金)	3月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 2月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	交付税借入 10,500億円 5/2借入			

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/16 (月)	700	▲ 20,700	▲ 20,000	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 1,300 ▲ 200 1,100	1,500 100	1,200	▲ 18,800	TB3M発行▲44000償還40500 2Y発行▲21000償還6200 30Y発行▲7000 個人向け3・5・10Y▲発行4200 個人向け3・5・10Y償還600
4/17 (火)	1,000	2,000	3,000	国債買入 短国買入 CP買入		8,400 2,500 2,500	13,400	16,400	
4/18 (水)	▲ 1,000	3,000	2,000				0	2,000	
4/19 (木)	▲ 2,000	▲ 18,000	▲ 20,000				0	▲ 20,000	5Y発行▲20000 交付税借入▲10500期日10500
4/20 (金)	▲ 2,000	▲ 5,000	▲ 7,000	被災地支援	▲ 1,100		▲ 1,100	▲ 8,100	TB1Y発行▲21000償還16200 エネルギー対策借入▲8500期日7000
週間合計	▲ 3,300	▲ 38,700	▲ 42,000	—	▲ 1,500	15,000	13,500	▲ 28,500	

4/16は日銀予想、4/17以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、マクロ加算残高にかかる基準比率が27%に上昇するものの、積みの序盤要因による様子見姿勢や、レポレートが低位で安定していることから、無担保コールO/Nではレートが低下する可能性も考えられる。

レポ市場は、投資家の動向次第ではあるが、引続き▲0.100%を下回るレートでの推移が予想される。

短国市場は、18日に1Y物、19日に3M物の入札が実施予定となっており、堅調な地合いがどこまで継続するか注目される。

CP市場は、週を通して特段のイベントは無く、事業法人の発行が落ち込んだ市場残高をどれだけ回復させるかが注目される。

主要なイベントとしては、国内では20日に3月の全国CPI、海外では18日にページブックが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。